

平成24年4月6日

担当 第6学年 千葉 義徳

1 ねらい

- (1) 身近に残された遺跡や遺物に接することにより、旧石器時代や縄文時代の自然環境や人々の生活の様子を知る。
- (2) 石器や土器などを作る体験活動を通して、太古の人間の生活の知恵を体感し、歴史学習への興味関心を高める。

2 評価

展示資料を通して旧石器時代や縄文時代の人々の生活を理解し、当時の生活の知恵を体感する活動から、歴史に対する興味関心を高めることができたか。

3 学習活動について

社会科 単元名「縄文のむらから古墳のくにへ」の発展学習として位置付ける。

4 事前指導

- ・旧石器時代や縄文時代の人々の生活について、これまでの学習を振り返る。
- ・富沢遺跡、山田上ノ台遺跡について、概要を伝える。

5 当日の指導（活動）内容

①地底の森ミュージアム

- (1) 見学学習：全体で館職員の説明を聞きながら、地下展示室の見学（一部）
学習ノートを利用して、1階展示室を班別に自主学習
- (2) 体験学習：石器づくり

②縄文の森広場

- (1) 見学学習：復元住居・遺構表示等の野外展示及び館内の展示見学
〈探検ノートを利用〉
- (2) 体験学習：石のアクセサリーづくり

6 当日の交通手段 貸し切りバス

7 事後指導

- ・学習ノートや体験シートを基に、学習のまとめをする。
- ・分かったことや感想を作文やレポートにまとめる。

利用学習報告書

平成24年5月2日

担当 第6学年 千葉 義徳

1 事後指導について

(1) 実施日：平成24年 4月16日(月) 5校時

(2) 主な内容

- ・社会科の授業で、展示学習の中で調べたことや受けた説明について確認しながら、旧石器時代の学習のまとめを行う。
- ・体験学習や展示学習を通して分かったことや感想を作文にまとめる。

2 送付する資料

(1) 児童生徒の学習後の感想(7点 7名分)

○私が一番印象に残った事は2万年前の遺跡です。富沢遺跡は、旧石器時代、氷河期に生えていた木の根だと知ってとても驚きました。氷河期は寒かったので、木はほとんどなかったと思ったからです。それから、展示室にあったトミザワトウヒの実と、現在もあるアカエゾマツの実がとても似ていることもおもしろかったです。(N子)



○地底の森で特に感じたことが二つあります。一つめは、旧石器時代の地面は今よりもおよそ5メートルも下にあったことです。今の地面よりもはるか下でふつうに人が暮らしていたと思うととても不思議に感じます。二つめは、旧石器時代の人々が現代人と比べてとても苦勞していたことです。石器を得るため何日もかけて歩き、石器を手作業で作り、折れたら作り直す……という繰り返し。私ならできないと思います。現代人はとても便利な生活を送っています。知識やたくさんの技能を残してくれた先祖の皆さんに感謝したくなる一日でした。(S子)

○2万年前の生活に少しでもふれることができ、よかったです。旧石器時代は、しかの肉などを石器で切っていました。ぼくも石器作りにチャレンジしましたが、大昔の人は頭も技術もすごいなあと感じました。石器作りでは、石がかたくとても苦勞しました。でも講師の先生が優しく教えてくれたので、とてもたのしかったです。ありがとうございました。(R男)

○しかの糞やたき火のあとなどの大昔の人々が住んでいたあともしっかり残っていて、きれいに保存されていることがとてもびっくりしました。見学に合わせて石器作りもさせてもらいました。しかの角を使って作りますが、私はうまく使いこなせず、上手には完成できませんでした。大昔の人々の器用さがこの体験を通して感じられました。(W子)



○竪穴住居を見てびっくりしました。なぜなら、入り口は狭いのに中はとても広いからです。そんなつくりに驚きました。また、石のアクセサリ作りはとても面白かったです。ぼくが作ろうとしたのはダイヤの形です。丸みの部分を一生懸命ヤスリで表しました。この体験学習を通して、ぼくはますます歴史が好きになりました。(T男)

○竪穴住居のまわりに4つの穴があったので調べてみました。ゴミ捨て場、土器を埋蔵する穴、貯蔵する穴などであることが分かり、大昔の人々の知恵を感じました。住居は思ったよりも頑丈そうに造られていて感心しました。(K男)

○石のアクセサリ作りがとても楽しかったです。まが玉・ハート・台形などいろいろな形があること、削り方は、ヤスリやブロックなどの堅い石で削ることなどを学びました。すごくつるつるしていて、さわりがよかったです。すぐに気に入りました。縄文時代にタイムスリップしたような気持ちでした。(N男)



(2) 教師の感想 (1点)

地底の森ミュージアムは、世界的にも稀な2万年前の森がそのまま残された貴重な遺跡です。子どもたちは実際にその様子を目にし、そこにある当時の人々の生活の跡から様々な思いを巡らすことで、歴史学習に高い関心をもつと同時に、先人の知恵に学ぶ歴史学習の楽しさを知ることになりました。また、縄文の森では、当時の生活を偲ばせる数々の土器や復元された竪穴住居など、本物に触れたことにより、子どもたちは教室だけでは学べない五感を通じた学習を進めていました。両施設で行った、石器作りや石のアクセサリ作りの体験学習や学習ノートを活用しながら進んで疑問を解決していく展示学習は、子どもたちの知的な好奇心を刺激し、今後の歴史学習にも好影響を与えることを実感しています。次年度以降も両施設を積極的に活用して学習を進めていきたいと考えています。